

フォーラム

再び秋に迎え撃つ

入場無料

新型インフルエンザの危機管理と情報活用

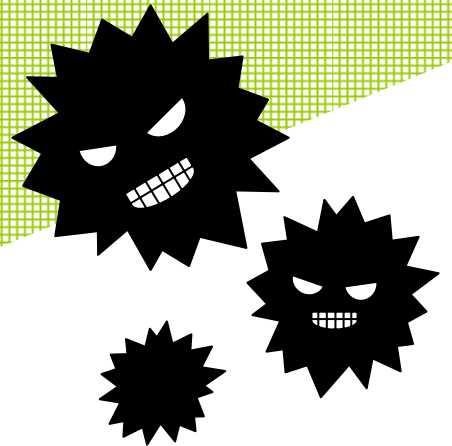
2009.7.26 日

13:30 ▶ 16:45

神戸国際会議場 502会議室

〒650-0046 兵庫県神戸市中央区港島中町6-9-1

TEL: 078-302-5200 <http://kobe-cc.jp/>



◇趣旨

再び秋冬に大流行が懸念される新型インフルエンザ。適切な情報発信のありようや危機管理とは。経済活動や社会生活の機能低下を最小限に止め、風評被害や偏見・差別を防ぎ、かつ感染拡大を押しとどめる妙案とは？行政、医学、メディアからエキスパートを招き、会場を交えて、迎え撃つ手立てを話し合う。

◇内容

報告者： 神戸市保健福祉局長

桜井 誠一氏

東京慈恵会医科大学准教授/
分子疫学研究室室長、小児科医長

浦島 充佳氏

朝日新聞編集委員

中村 通子氏

コーディネーター： 関西学院大学社会学部准教授

森 康俊氏

◇主催 関西学院大学災害復興制度研究所

◇後援 朝日新聞社

申込先・方法

参加ご希望の方は住所・氏名・連絡先・「公開研究会傍聴希望」と明記のうえ、下記あてに郵便、FAXまたは研究所公式HP (<http://www.fukkou.net/>) の「お問い合わせ」ページにてお申し込みください。※会場の都合上、定員100名になり次第、締め切らせていただきます。なお、お申込み時点で既に受付が終了していた場合のみ、こちらから折り返しご連絡させていただきます。受付完了の連絡や、参加証等は発行いたしませんので、当日は直接会場までお越しください。



関西学院大学 災害復興制度研究所

〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155 TEL: 0798-54-6996/FAX: 0798-54-6997

出演者プロフィール

桜井 誠一（さくらい せいいち）神戸市保健福祉局

関西大学法学部卒。91年4月に広報課長。95年阪神・淡路大震災時は神戸市災害対策本部の情報整理、マスコミ対応の責任者として従事し、翌96年4月、生活再建本部次長として被災者の生活再建施策の立案を担当する。02年4月から市民参画推進局長として協働と参画の仕組みづくりを担当、07年4月から現職。93年から3年間、関西学院大学非常勤講師（行政広報論）。自治体の危機管理をテーマに活動。日本災害情報学会会員、日本災害復興学会会員。

浦島 充佳（うらしま みつよし）東京慈恵会医科大学 准教授

86年、慈恵医大卒業後、附属病院において骨髄移植を中心とした小児がん医療に献身。93年、医学博士。00年ハーバード大学大学院にて公衆衛生修士取得。06年より現職。911米国同時多発テロに強い衝撃を受け、医師として大勢の尊い命を守るべく活動するようになる。専門：小児科、疫学、統計学、がん、感染症。現在ビタミンDによるインフルエンザ予防を含めた疾病への影響について研究中。東京慈恵会医科大学分子疫学研究室室長・小児科医長。

中村 通子（なかむら・みちこ）朝日新聞編集委員

89年に東京大学大学院医学系研究科の保健学修士課程を修了。保健学修士。89年に朝日新聞社に入社し、岡山、神戸両支局、大阪本社整理部などの勤務を経て、97年に大阪本社科学部（現・科学医療グループ）に。以来、一貫して医療・健康の分野を担当しており、07年から現職。感染症、災害医療など「危機管理医学」が中心テーマ。日本集団災害医学会評議員、日本感染症学会員。著書に「災害・健康危機管理ハンドブック」（分担執筆）など。

森 康俊（もり やすとし）関西学院大学社会学部 准教授

99年、東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。同大学院情報学環、大妻女子大学社会情報学部などを経て現職。専攻はコミュニケーション論。危機管理論。自然災害の他、テロリズムや巨事故、感染症に起因する報道、コミュニケーション、集合行動に関心を持つ。原子力防災、企業防災、国民保護関連の検討会メンバー。